



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	創刊にあたって
Author(s)	津曲, 敏郎
Citation	北方人文研究, 1
Issue Date	2008-03-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/34535
Type	editorial
File Information	soukan2.pdf



創刊にあたって

平成 19 年 4 月 1 日付で文学研究科に「北方研究教育センター」が設置された。本センターは、平成 18 年度文学研究科「特色ある研究教育プロジェクト」として採択された「北方研究の構築と展開」プロジェクトを母体としている。同プロジェクトが中心となって、平成 18 年 9 月に文学研究科公開シンポジウム「北方的—北方研究の構築と展開」を開催し、多くの学生・市民に文学研究科の広範囲にわたる北方研究の一端が示された。その内容は同プロジェクトから刊行された報告書にまとめられている（『北方的—北方研究の構築と展開』北海道大学大学院文学研究科、平成 19 年 3 月刊）。このプロジェクトを出発点として、文学研究科の多様な北方研究の集約と、より一層の発展をめざして、センター設置が構想された。

周知のとおり、本学にはすでに北方研究にかかわる組織が少なからず存在するが、多くは自然科学系の研究を主体とするものであった。一方、本センターと時を同じくして学内共同教育研究施設「アイヌ・先住民研究センター」が設置され、先住民文化の学際的研究のみならず、生活・権利にかかわる政治・経済・法律をも視野に置いた研究と連携が推進されることとなった。本研究科の北方研究教育センターはこれらと緊密な連携をとりつつも、文学研究科ならではの北方人文研究を集約し、促進することをめざしている。もちろんそこには旧来の研究に対する批判と反省を踏まえた、人間性と人道を重んじる、まさに humanities としての人文科学の自覚と、それを継承すべき若い世代へのまなざしも含まれている。

具体的な活動計画として、公開講座や講演会をととして北方研究の現状と課題について広く周知・啓蒙をはかるとともに、ホームページ等による情報の集約と発信に努める。また大学院共通科目等、教育への参画とプログラム・教材開発も視野に置いている。そして何よりも活動の大きな柱として念頭にあったのが、研究成果公開と研鑽の場として、かつての『北方文化研究』誌に代わるような専門的学術誌を創刊し、年に一度の刊行を継続することである。雑誌のカラーは号を重ねることでおのずと出てくるものであろうが、基本方針として、分野や投稿範囲を狭く限定することはせず、開かれた場として北方研究全体の発展に寄与するものでありたいと考えている。今後は電子ジャーナル化も視野に置きながら、国際的にも通用する査読誌としての水準の達成・維持をめざすつもりである。

本誌刊行にあたっては、文学研究科とりわけ同研究推進委員会の格別のご配慮をたまわった。センター長以下、5 名の運営委員と 1 名の専任教員（全学運用教員枠の助教）からなる小所帯であるが、本誌ならびにセンターのさらなる発展に向けて、研究科内外の一層のご理解・ご協力を切に希望する次第である。

平成 20 年 2 月 29 日

北海道大学大学院文学研究科
北方研究教育センター長
津 曲 敏 郎